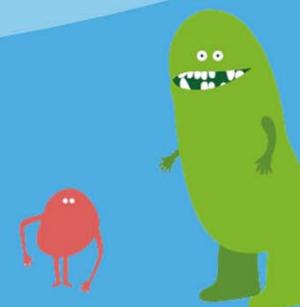


# 中長期的な成長に向けて

ナブテスコ株式会社

2017年11月



当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。当資料に掲載されている内容のうち数値は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

1. 2017年12月期第3四半期実績(IFRS)

2. 中期経営計画の進捗

3. 中期経営計画の非財務面での取り組み



## 1-1. 第3四半期連結業績概況 (IFRSベース)

(単位：百万円)	2016/12 第3四半期累計実績 (A)	2017/12 第3四半期累計実績 (B)	増減額 (B)-(A)	2017/12 通期計画 (2017年7月31日時点)
売上高	176,691	202,809	26,118	273,000
コア営業利益	17,927	21,682	3,755	28,400
営業利益	20,047	21,615	1,568	28,400
(営業利益率)	11.3%	10.7%	-0.6pt	10.4%
金融損益	-1,490	339	1,829	-
持分法による投資利益	591	4,156	3,565	-
当期利益*	13,741	18,809	5,068	23,900
基本的1株当たり 当期利益	111.25	152.44	41.19	193.60

\* 親会社の所有者に帰属する当期利益

### Notes

為替レート 2016年12月期 第3四半期累計実績：US\$1=¥108.83 RMB1=¥16.52 EUR1=¥121.12 CHF1=¥110.65  
2017年12月期 第3四半期累計実績：US\$1=¥111.81 RMB1=¥16.44 EUR1=¥125.24 CHF1=¥113.94

為替感応度(為替が1円変動したときの営業利益に対する影響)

2016年12月期 第3四半期累計実績：米国ドル 39百万円、人民元軽微、ユーロ軽微、スイスフラン軽微  
2017年12月期 第3四半期累計実績：米国ドル 52百万円、人民元 182百万円、ユーロ軽微、スイスフラン軽微

## 1-2. 第3四半期セグメント別業績概況 (IFRS)

(単位：百万円)

セグメント	項目	2016/12 第3四半期累計実績 (A)	2017/12 第3四半期累計実績 (B)	増減額 (B)-(A)	2017/12 通期計画 (2017年7月31日時点)
コンポーネント ソリューション (CMP)	売上高	59,272	81,449	22,177	103,600
	営業利益 (営業利益率)	7,721 (13.0%)	15,011 (18.4%)	7,290 (5.4pt)	18,200 (17.6%)
トランスポート ソリューション (TRS)	売上高	59,126	57,728	-1,398	80,600
	営業利益 (営業利益率)	9,734 (16.5%)	6,924 (12.0%)	-2,810 (-4.5pt)	10,200 (12.7%)
アクセシビリティ ソリューション (ACB)	売上高	46,651	52,048	5,397	71,100
	営業利益 (営業利益率)	4,904 (10.5%)	3,183 (6.1%)	-1,721 (-4.4pt)	5,800 (8.2%)
マニュファクチャリング ソリューション (MFR)	売上高	11,641	11,584	-57	17,700
	営業利益 (営業利益率)	1,190 (10.2%)	1,192 (10.3%)	2 (0.1pt)	1,600 (9.0%)
全社または消去		-3,501	-4,695	-1,194	-7,400
連結合計	売上高	176,691	202,809	26,118	273,000
	営業利益 (営業利益率)	20,047 (11.3%)	21,615 (10.7%)	1,568 (-0.6pt)	28,400 (10.4%)

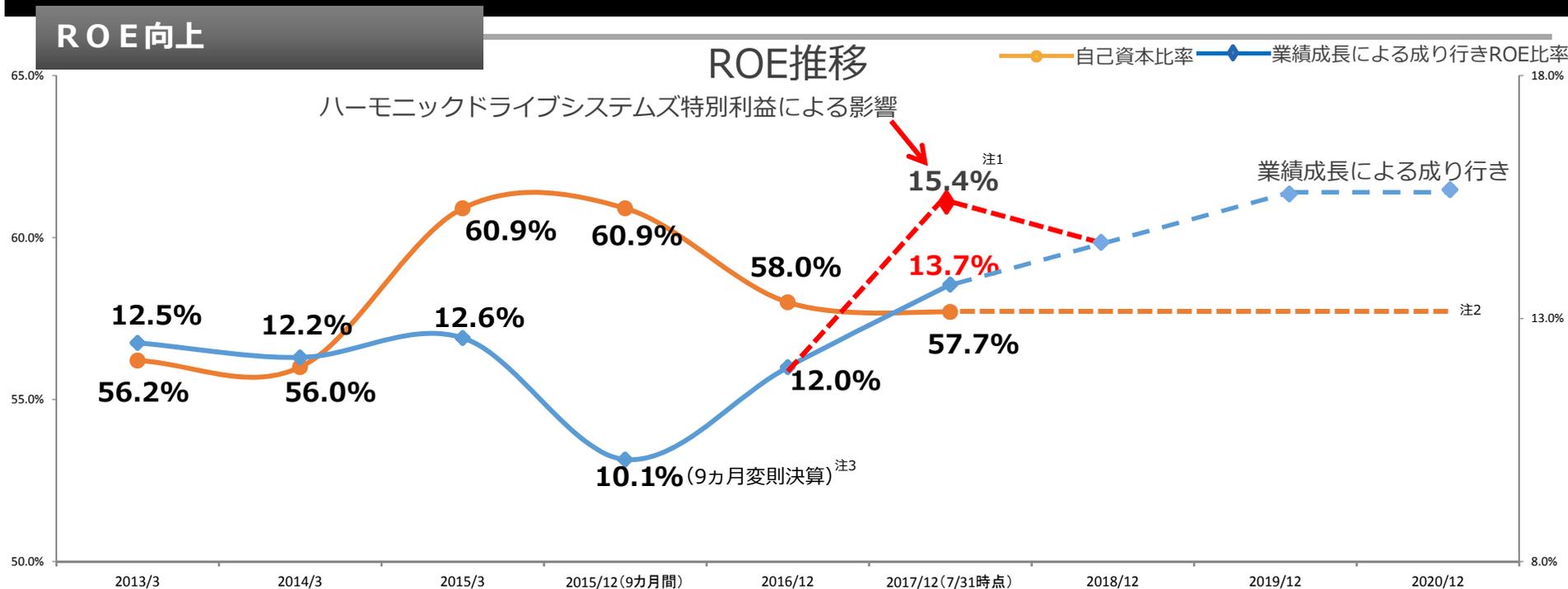
## 2-1. 中長期成長に向けて—中期経営計画でのコミットメント

**ROE15%達成**

**連結配当性向35%以上**

**ESG課題の解決に注力**

## 2-2.中期経営計画（2017年～2020年）コミットメントの進捗：ROE15%



### ■ 中期経営計画1年目の見通し

17年12月期は精密減速機事業及び油圧機器事業の好調よりROEは昨年より改善し実質ROEは13.7%の見通し

持分法子会社(ハーモニック・ドライブ・システムズ)の買収案件によって同社に「段階取得に係る差益」が発生し結果として当社の「持分法による投資利益」が増加し今期のROEは15.4%になる見込み

### ■ 中期経営計画期間中の早い段階でROE15%を達成し維持

注1 2017年12月期（7月31日時点）上方修正後の見込値。

注2 2017/12月期（6月31日時点）自己資本比率を2020年までに仮置き。

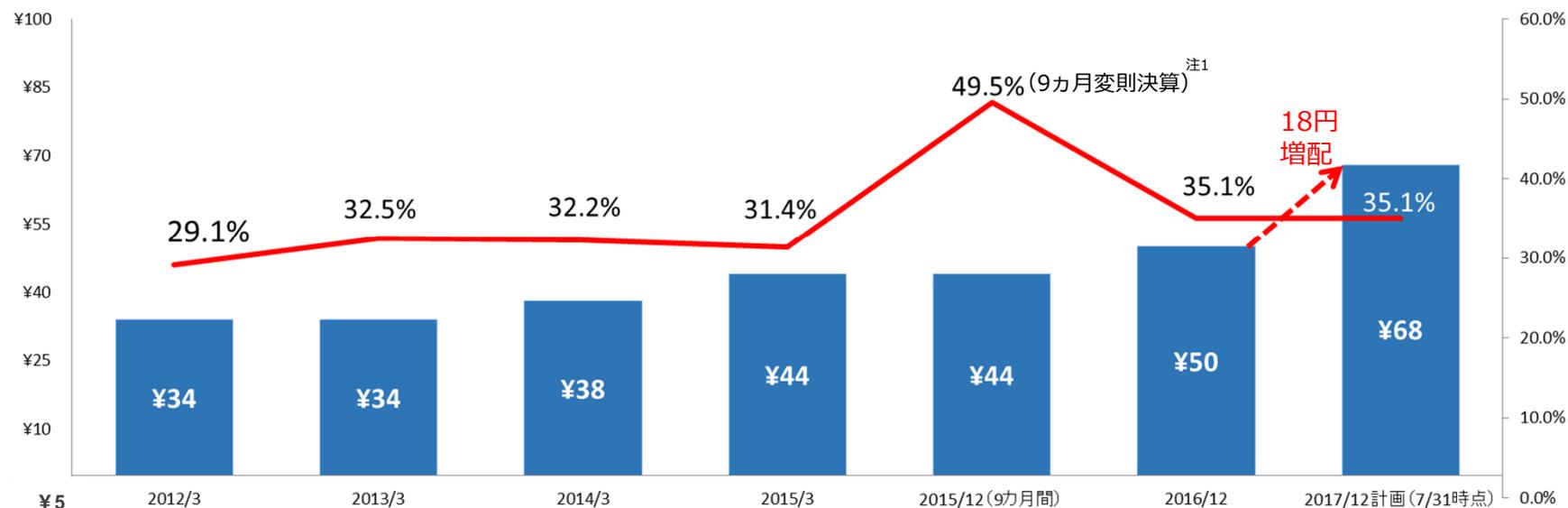
注3 2015/12月期は決算期変更の経過期間となることから、従来3月決算であった会社は9カ月間(2015年4月1日～2015年12月31日)、従来より12月決算の会社は12カ月間(2015年1月1日～2015年12月31日)を連結対象期間とした決算となります。

## 2-3. 中期経営計画（2017年～2020年）コミットメントの進捗：連結配当性向35%以上

連結配当性向

配当性向の実績

■ 1株当りの配当金 ■ 配当性向



■ 「配当性向35%以上」は1年目から実施。前年同期比で18円増配。

■ 安定的な配当方針

(その他：2015年に約100億円の自社株買い、償却を実施。)

注1 2015/12月期は決算期変更の経過期間となることから、従来3月決算であった会社は9ヵ月間(2015年4月1日～2015年12月31日)、従来より12月決算の会社は12ヵ月間(2015年1月1日～2015年12月31日)を連結対象期間とした決算となっており、連結配当性向が方針(30%-40%)を上回っております。

## 2-3.中期経営計画（2017年～2020年）コミットメントの進捗：ESG課題の取組

### 2017年 ESGの取り組み

-2017年5月 2016年 統合報告書の発行

-2017年7月 CO2排出削減長期目標設定

#### 長期目標

(2015年度比)	2030年	2050年
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	-30%	-80%

-2017年8月 「業務改革推進室」を設立

・取組み：



## 2-4. ESGトピックス (2017)

### 2017年 ESGの取り組み・評価

- 2017年3月 2016年 ボーディング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞 (環境部門)
- 2017年7月 GPIFが新たに採用したESG指数の構成銘柄に選定
- 2017年7月 当社のCO2削減目標が「Science Based Targets (SBT)イニシアチブ」の承認を取得
- 2017年9月 ESG投資の株式指数DJSI World Indexに2年連続で選定
- 2017年10月 CDPから気候変動対応の評価 :



FTSE Blossom  
Japan

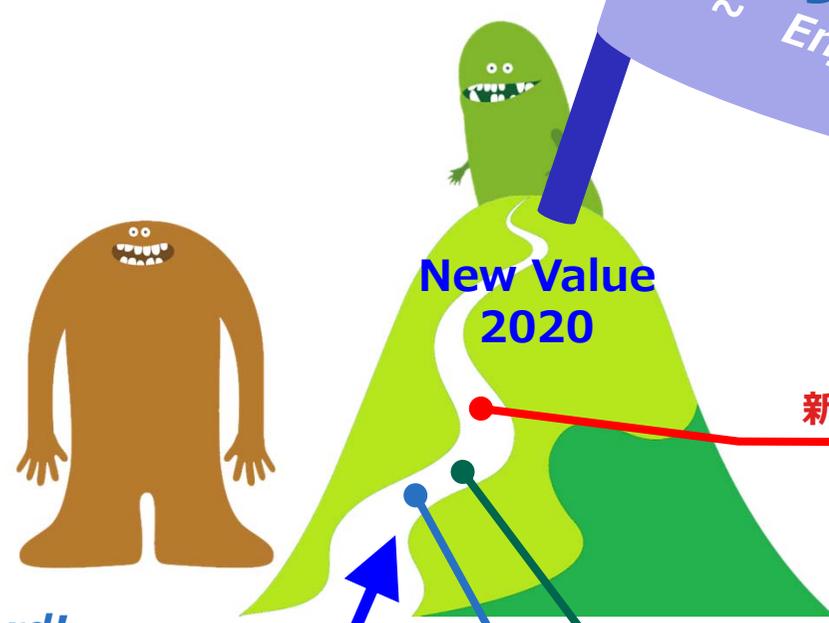
評価項目	認定結果
気候変動	Aリスト企業に認定
水資源管理	A-企業に認定



# 3-1. 中期経営計画の基本方針

～ 基本方針 ～

*Move forward! Challenge the future!*  
～ Create "New Value 2020" ～



～ 全社戦略 ～

**Market Creation**  
新市場の獲得  
海外展開、新分野の開拓を加速し、新市場を獲得。

**Technology Innovation**  
新たなソリューションの創造  
コンポーネントからシステム、サービスへと、新たなソリューションを創造。

**Operational Excellence**  
収益性・効率性の向上  
生産改革、業務改革による収益性向上と、資本効率の追求により企業価値を高める。

*Move forward!*  
これまでの取組を推進・強化

*Challenge the future!*  
新たな挑戦・改革

## 3-2. 非財務面での取り組み: Operational Excellence

### ■ 3-2-1 生産の高自動化

# 〈2020年目標〉 生産性向上10% (年率 2.5 %)



\*AM : Additive Manufacturing

## 3-2. 非財務面での取り組み: Operational Excellence

### ■ 3-2-2. 工場管理力強化

〈狙い〉 無駄の排除 ⇒ 生産のスピードアップ

〈目標〉 **〈2020年目標〉 総在庫回転日数 : 25%短縮**

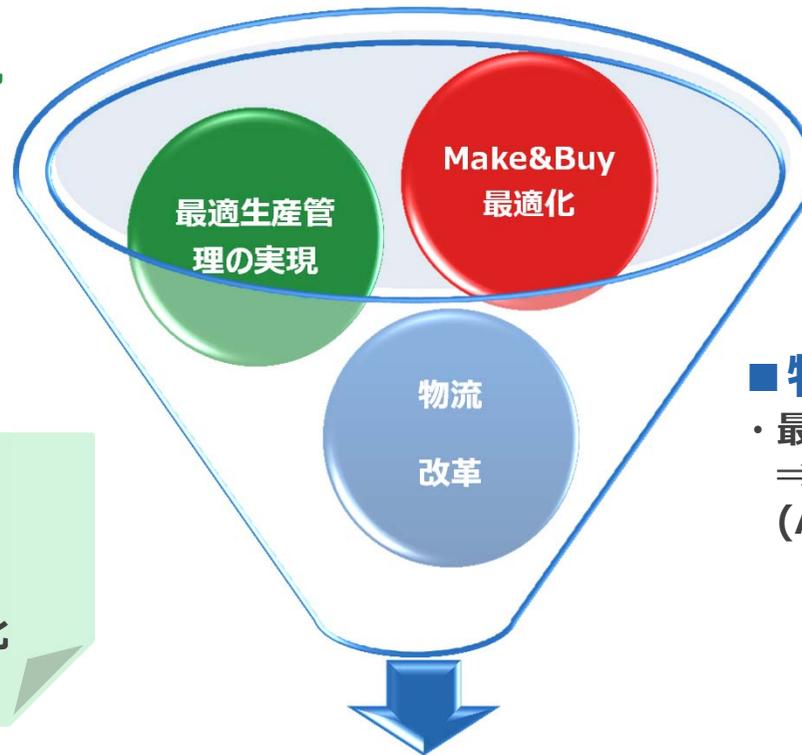
#### ■ 最適生産管理の実現

- ・ 流し方法の最適化  
(一個流し・バッチ生産)
- ・ 生産ライン最適化  
(専用・汎用ライン)



#### AI & IoT活用

- ・ AI:自動スケジューリング
- ・ IoT:デジタル化・見える化



#### ■ Make & Buy 最適化

- ・ コア部品/工程の最適化

#### ■ 物流改革

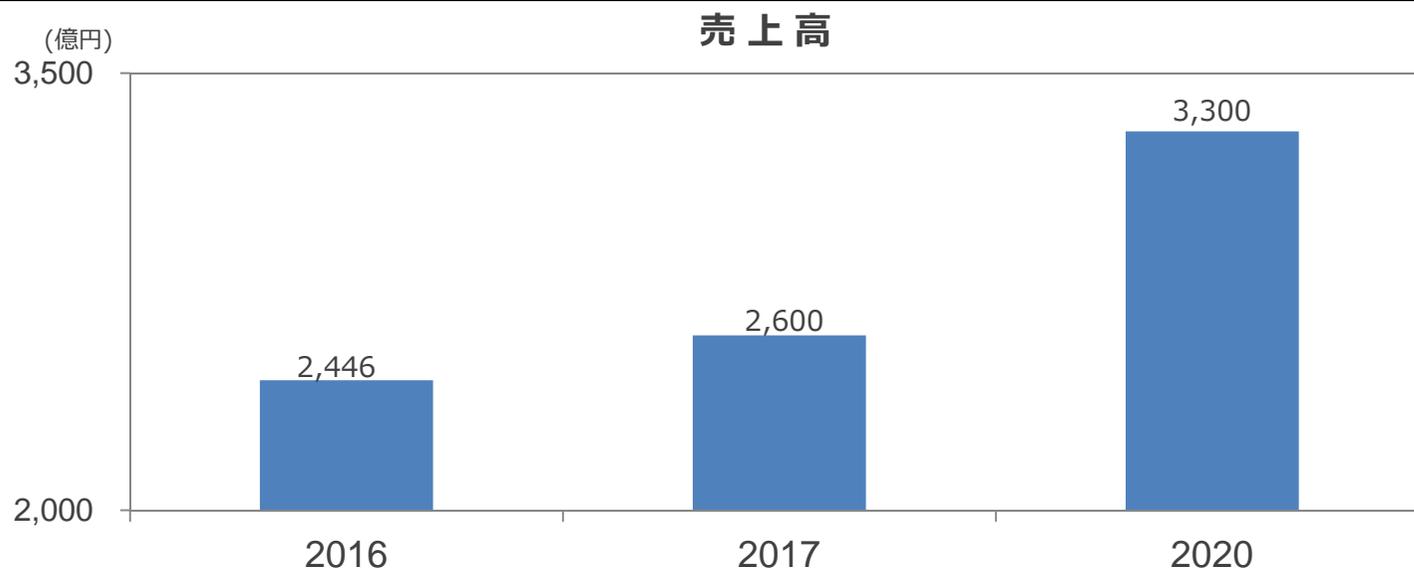
- ・ 最適工程設計  
⇒ 最適現場レイアウト + 自動搬送  
(AGVの導入他)

生産の見える化徹底

# Appendix



# 中期経営計画（2017年～2020年）参考値



	2016年12月期 実績(IFRS参考値) <sup>注4</sup>	2017年12月期 計画(IFRS)	2020年12月期 参考値(IFRS)
<b>売上高</b>	2,446億円	2,600億円	3,300億円
<b>コア営業利益*</b>	251億円	260億円	420億円
<b>営業利益</b>	269億円	260億円	420億円
<b>当期利益**</b>	194億円	197億円	300億円

\*コア営業利益：日本会計基準（JGAAP）の営業利益に対して、主にのれん償却額を戻し入れて算出しています。

\*\*当期利益＝親会社の所有者に帰属する当期利益

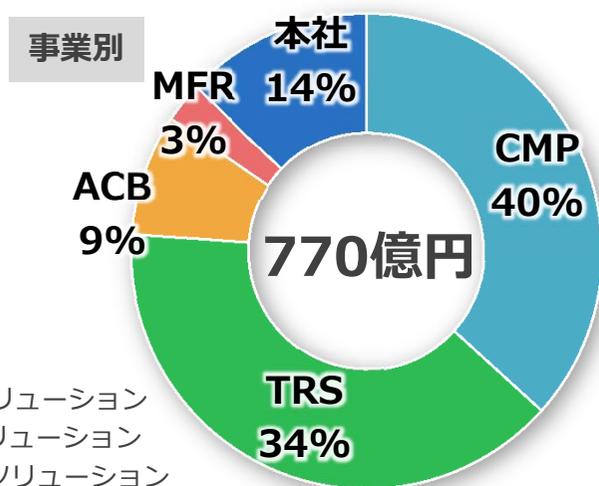
注4:2016/12通期実績(IFRS)の値は、2017/12期(IFRS)計画と比較するために作成した参考数値です。会計監査の結果変更になる可能性があります。

# 中期経営計画（2017年～2020年）：更なる成長のための投資

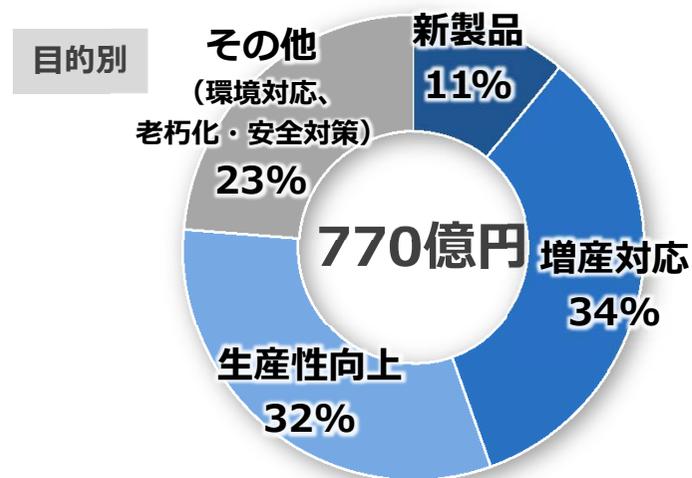
## ■オーガニックおよび各種戦略による成長で目指す想定値

(単位：億円)	前中期経営計画期間	新中期経営計画期間
	累計額 15/3,15/12(9カ月),16/12	4カ年累計額
設備投資額	310	770
研究開発費	200	400
M&A等	100	300

### 新中期経営計画 4カ年累計



CMP:コンポーネントソリューション  
 TRS:トランスポートソリューション  
 ACB:アクセシビリティソリューション  
 MFR:マニュファクチャリングソリューション



オーガニック・グロースによる成長に加えて、  
各事業に即した戦略により成長

市場成長により成長

技術優位戦略

精密減速機、航空機器

- 競争優位を維持し続ける戦略

企業基盤強化：

全社

- 業務改革や組織機構改革による企業基盤の強化
- 財務戦略強化(管理指標としてROIC導入)



市場に即した戦略により成長

① 地域シェア拡大型：

自動ドア

- 地域集中型で市場シェアを拡大
- バリューチェーンモデルで収益効率化

② 新市場攻略型：

鉄道車両用機器、包装機

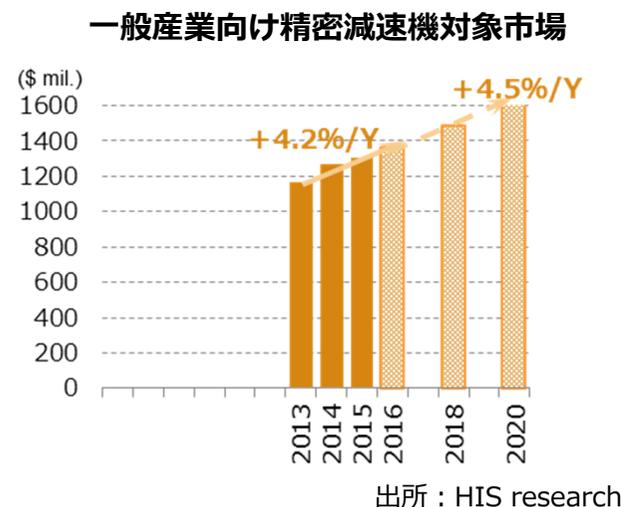
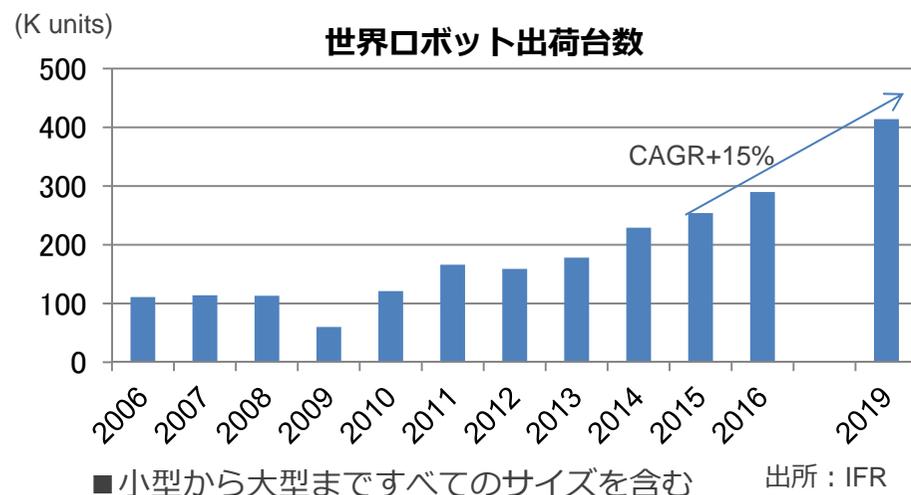
- 欧州、中国、東南アジア市場攻略

③ 販売製品拡充型：

油圧機器、商用車機器、船用機器

- 製品ラインナップ拡充
- システム化/モジュール化対応

- 事業基盤である産業用ロボット向け減速機の競争優位性維持
- 一般産業市場での拡販



### Technology Innovation

圧倒的な技術力と豊富な製品群により競争優位を維持

### Operational Excellence

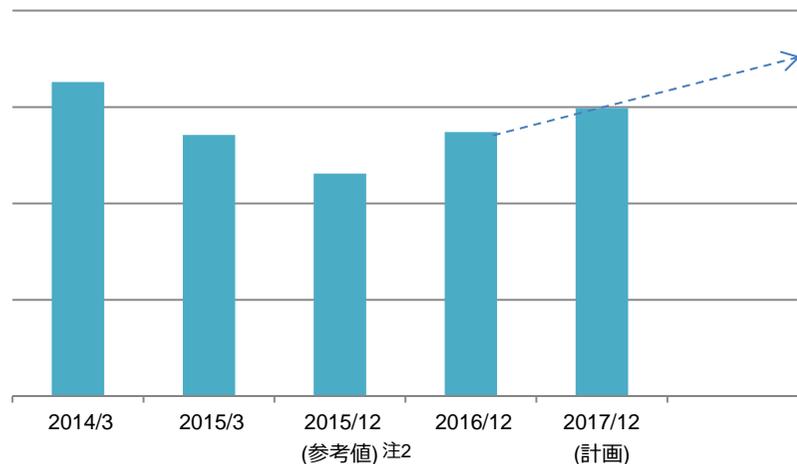
自動化・省人化を追求し、高効率工場の構築と生産能力拡大

### Market Creation

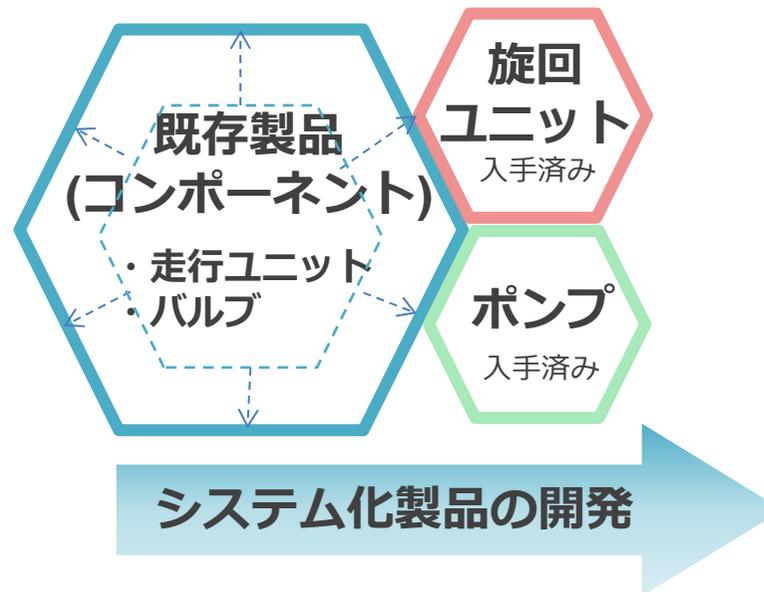
非ロボット産業向け販売拡大に向けた高付加価値製品拡充

■ 製品ラインナップ拡充とシステム化/モジュール化対応

売上高推移



注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間（12カ月間）に置き換えて算出した数値となりますのでご注意ください。



Technology Innovation

既存製品の競争力強化と、次世代システム製品の開発

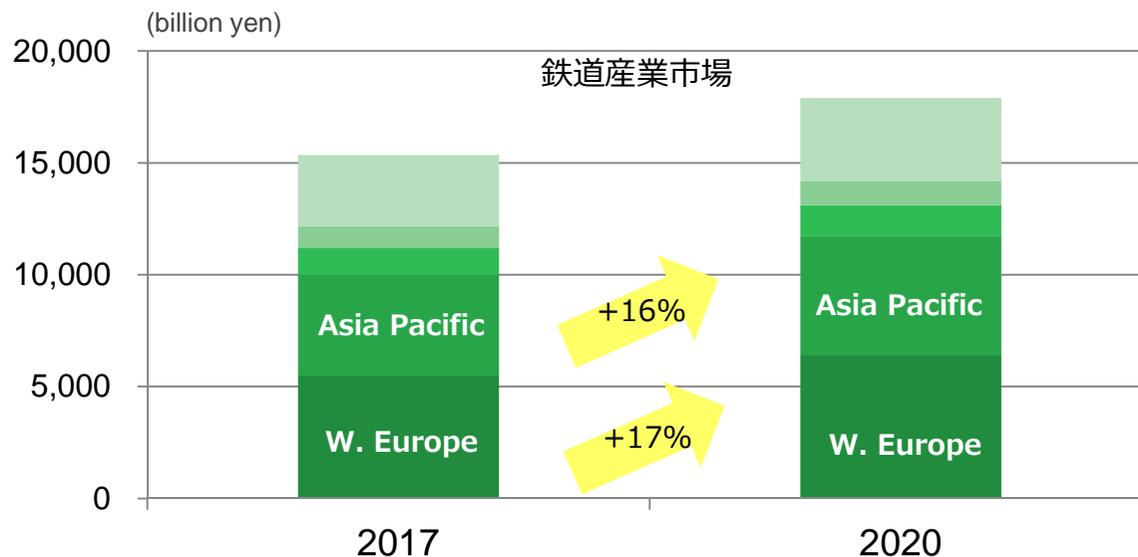
Operational Excellence

グローバル生産体制の一層の強化

Market Creation

システム販売・用途開拓

■ 欧州市場、東南アジア市場攻略



■ 欧州

戦略製品投入による  
欧州市場攻略

■ 東南アジア

タイのアフターサービス  
子会社を通じたMRO拡販

■ Asia Pacific ■ Western Europe ■ Eastern Europe ■ Africa/Middle East ■ NAFTA

出所：UNIFE [World Rail Market Study]

Technology Innovation

システム製品の投入

Operational Excellence

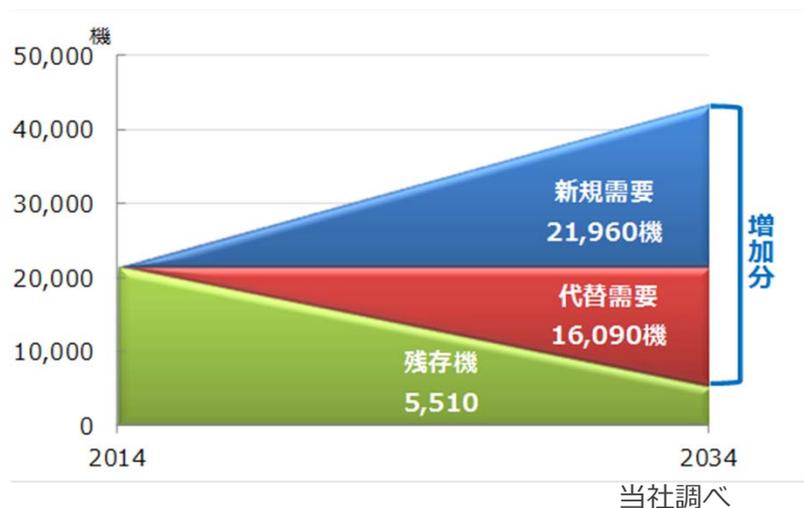
物流・検査の自動化推進

Market Creation

欧州市場拡販

■ 独創的な顧客価値を提供し、民間航空機向けビジネスでの成長を図る。

【旅客機の需要予測】



■ 防衛省向けビジネス

-安定

■ 民間航空機新プログラム

- ・ B737MAX (2017年運用開始予定)
- ・ B777X (2020年運用開始予定)

Technology Innovation

継続的なイノベーションの推進

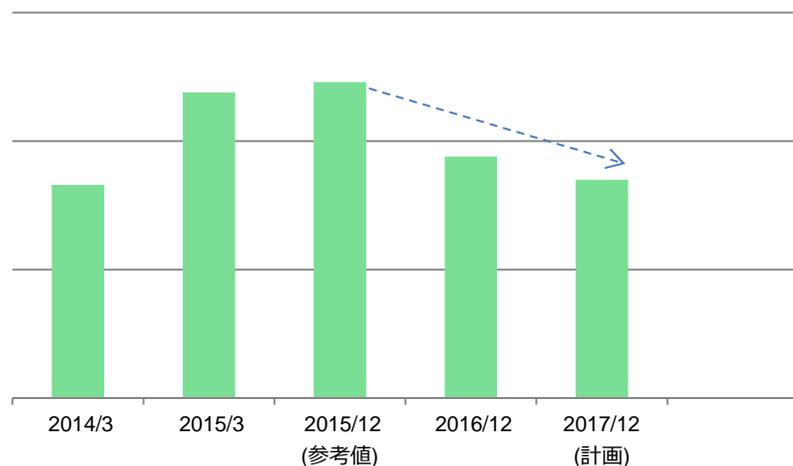
Operational Excellence

生産性向上と環境負荷低減

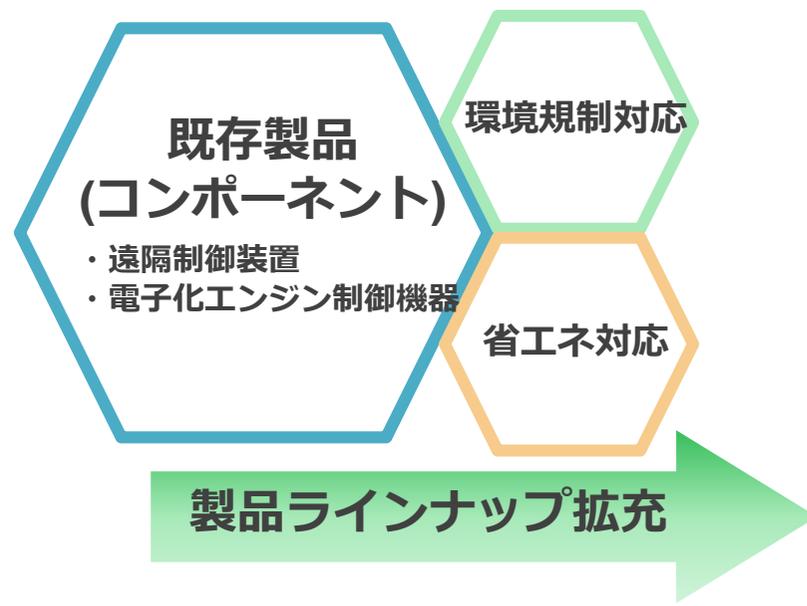
Market Creation

顧客付加価値を高める提案型MRO推進

## ■ 製品ラインナップおよびサービスメニュー拡充による収益拡大 売上高推移



注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間（12カ月間）に置き換えて算出した数値となりますのでご留意下さい。



Technology Innovation

環境規制・省エネに対応する製品の開発

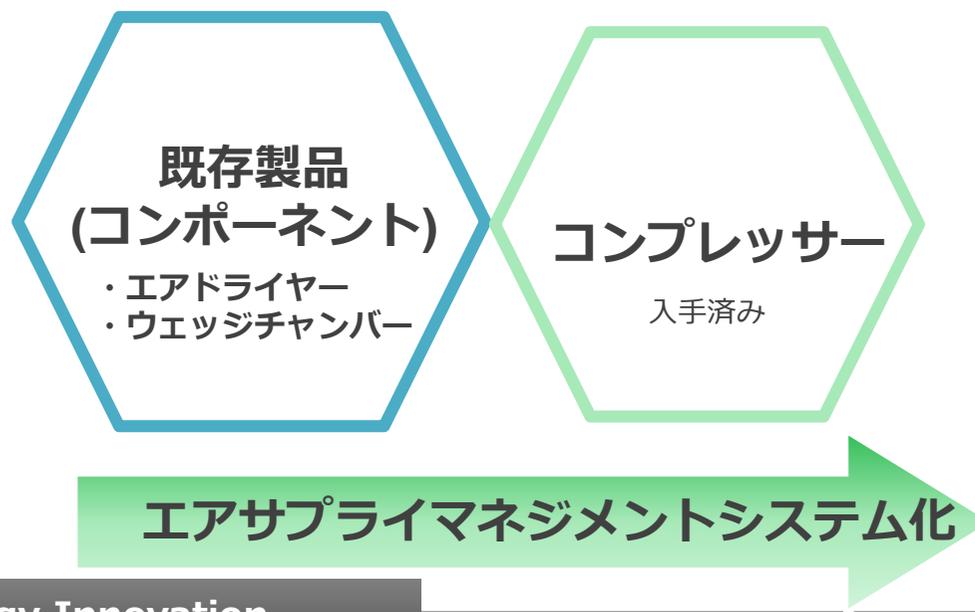
Operational Excellence

IoT/AI活用によるSCM効率化

Market Creation

ICT/IoTを活用した提案型営業の強化

■ システム化製品の開発および欧州事業拡大



Technology Innovation

コンポーネントからシステム化製品への転換

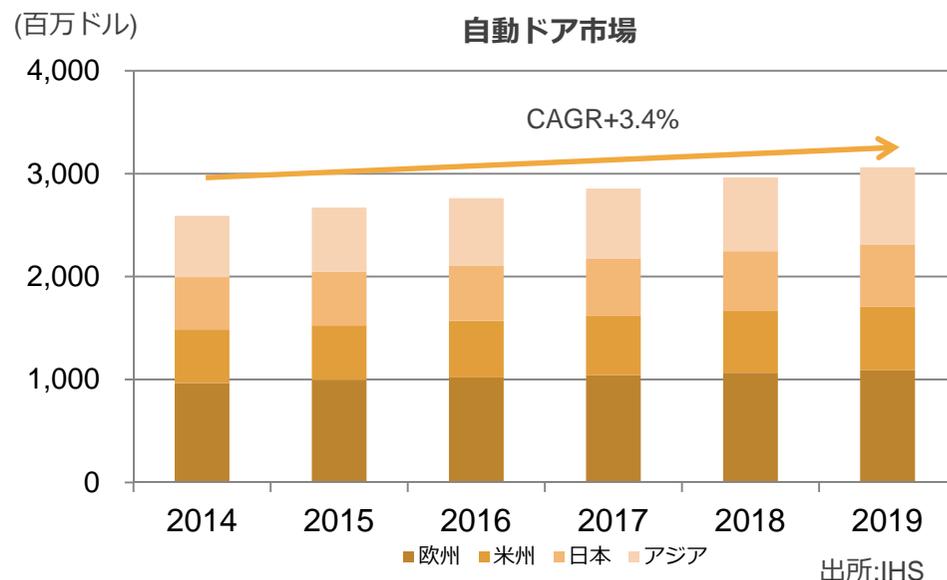
Operational Excellence

グローバル最適地生産戦略の実行

Market Creation

グループ拠点を活用した欧州・インド事業の拡大

■バリューチェーン事業基盤の強化、地域集中型で市場シェアを拡大



■CAGR5%以上を目指す

- ・バリューチェーンモデル強化 (M&A活用含む)
- ・ソリューション力強化

Technology Innovation

高付加価値保守サービスの開発と提供

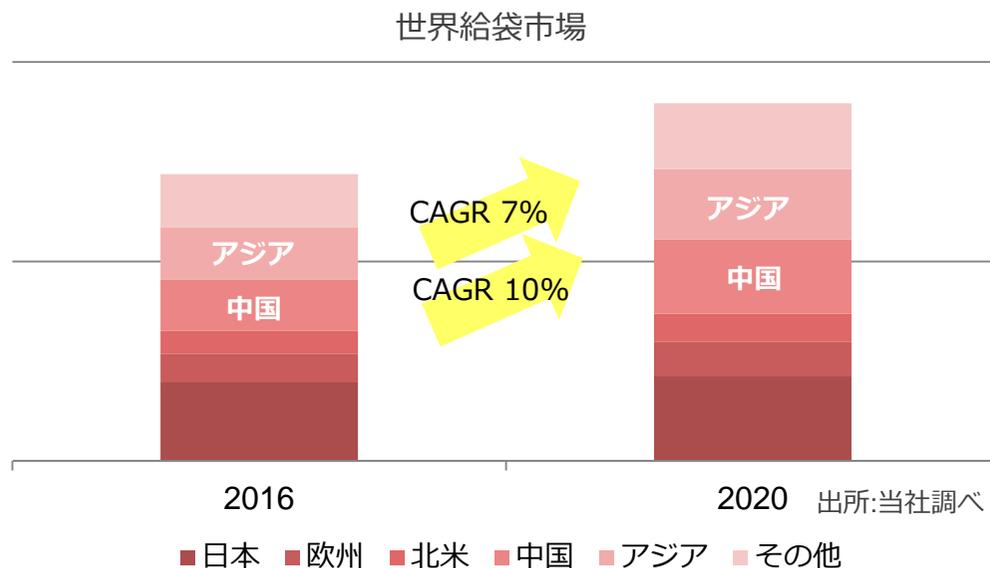
Operational Excellence

SCM改革による収益力向上

Market Creation

地域バリューチェーンモデル一層の推進

■ 中国、東南アジア等新興国市場攻略



- 中国  
包材メーカーの開拓
- アジア  
食品メーカーを中心に攻略

Technology Innovation

製品領域の拡大

Operational Excellence

共通プラットフォーム化による生産リードタイム改善

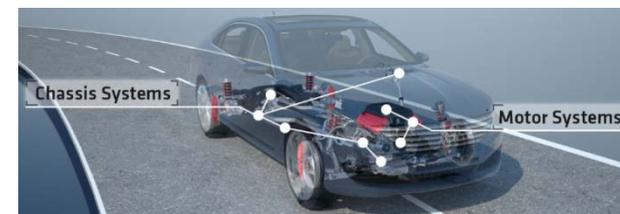
Market Creation

欧米アジア地域における拡販強化

# メカトロニクス化促進を目的とした買収

## OVALO GmbH/adcos GmbH 概要

	OVALO GmbH	adcos GmbH
所在地	Limburg an der Lahn (Germany)	Köln (Germany)
取扱商品	シャシー・システム、 エンジン・システム製品	開発用ECU*、 ソフトウェア
単独売上高 (2016/12期見込)	約20百万ユーロ	約2百万ユーロ
買収金額	約82百万ユーロ (貸付債権取得価格を含む。)	



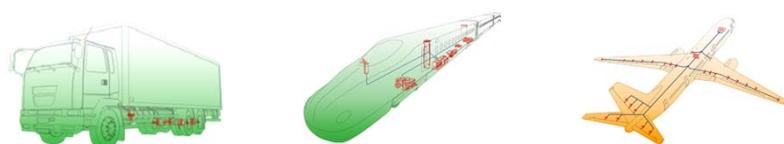
\*開発用ECU(Electric Control Unit) : 実機搭載用コンピューターを設計・製造する前に、RCP(Rapid Control Prototyping)で使用する開発専用コンピューター

\*RCP: モデルベース開発で再現したソフトウェア等を開発専用のコンピューターにダウンロードし、実際に動かすことにより確認、改良する開発手法

## 期待されるシナジー効果

### Technology Innovation

モーター・コントロールユニット一体製品の開発能力を活用して、当社製品のシステム化・メカトロニクス化を加速。



### Market Creation



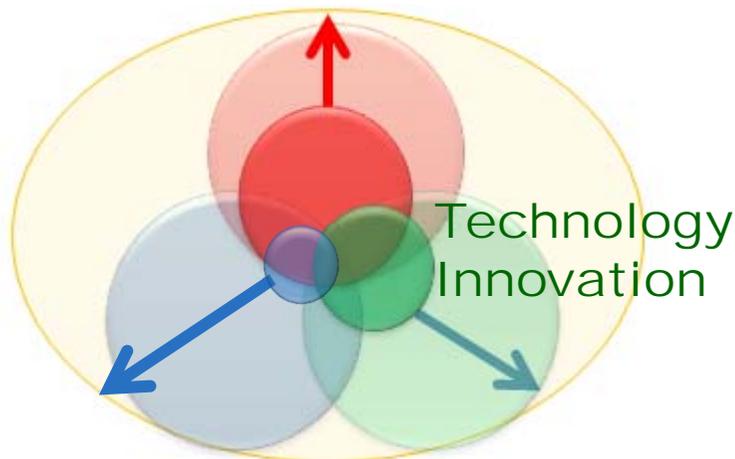
欧州における新たな開発・生産拠点として活用。

## ■ ESG課題解決に向けサステイナブル経営を実践

株主	<ul style="list-style-type: none"><li>■ ガバナンスの向上</li><li>■ リスクマネジメントの強化</li><li>■ ESG情報の発信強化</li></ul>
顧客	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 顧客満足の追及</li><li>■ 高い品質と安全性の確保</li></ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 働き方改革</li><li>■ 人財育成とダイバーシティの推進</li><li>■ 安全な職場の確保</li></ul>
取引先	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 責任ある調達活動</li></ul>
地球・社会	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 気候変動問題への対応</li><li>■ 環境に配慮したものづくり</li><li>■ 地域社会の発展</li></ul>

# 非財務面での取り組み 基本戦略を支える経営基盤の強化

## Market Creation



## Operational Excellence

### ■ 組織改革、業務改革によるオペレーション基盤の強化

- ガバナンス向上
  - 権限委譲による意思決定スピードアップ
  - 地域統括機能・モニタリング体制の強化
- 組織の活性化と人財活用の高度化
  - 働き方改革の推進
  - 健康への取り組み強化
  - ダイバーシティの推進

### ■ 海外展開の加速に向け、経営基盤を強化

- グローバル人財の育成、電子・電気系人財の獲得
- グローバルな内部統制・コンプライアンス・リスクマネジメント体制の確立
  - コンプライアンス委員会・リスクマネジメント委員会を設置（2016/12）
  - ナブテスコグループ倫理規範を制定（人権尊重・贈収賄の防止etc）

### ■ スマートファクトリー化による高効率生産・高環境性能・快適労働環境の実現

### ■ 「ものづくりイノベーション」による圧倒的な競争優位を確立

#### ■ 環境負荷の低減：

##### 長期目標

(2015年度比)	2030年	2050年
CO <sub>2</sub> 排出量の削減	-30%	-80%

##### 中期目標

(2015年度比)	2020年
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ・ グローバル売上原単位の低減 ・ 国内総排出量の低減	・ グローバル売上原単位 -9%以下 ・ 2015年度の国内総排出量を維持
ゼロエミッション化の推進	埋立処分量ゼロ
有害物質使用量の削減	2016年度の売上原単位を維持

#### ■ ものづくりイノベーション

- ・ IoT & AIの活用による高自動化・スマート生産管理の推進
- ・ 独自生産技術の開発
- ・ Make & Buy最適化、調達・物流改革の推進

# 非財務面での取り組み 責任ある企業行動に向けてCSR強化

## ■ CSR活動の体系化を推進

### ■ CSR委員会設置 (2016/8)

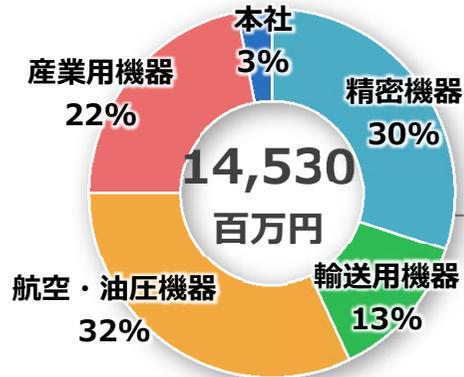
■ CSR基本方針の制定：当社は、「ナブテスコ ウェイ」の実践を通じて、「経営の透明性の確保」と「安全・安心・快適の提供」に取り組み、企業としての社会的な責任を果たすことで、環境・社会の諸課題の解決に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を追求してまいります。

### ■ マテリアリティ (重要なCSR課題) の再検証

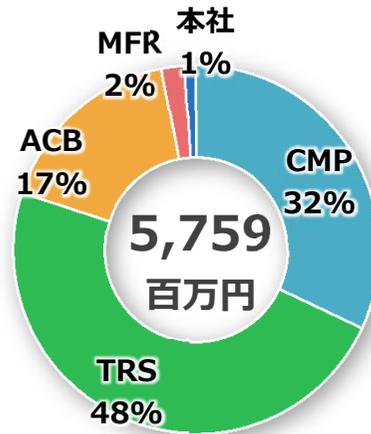
大項目	ESG分類	マテリアリティ (重要なCSR課題)	関連する 主なSDGs項目
経営の 透明性 の確保	ガバナンス (G)	●コーポレート・ガバナンスの強化	 
		●リスク管理とコンプライアンスの徹底	
		●ステークホルダーとの積極的な対話	
安全・ 安心・ 快適の 提供	社会 (S)	●顧客満足の追求、品質・安全の確保	 
		●人財育成とダイバーシティの促進	
		●安全で働きやすい職場の確保	
		●人権の尊重と腐敗防止	
		●公正・公平・公明な調達活動	
	環境 (E)	●地域社会の発展	 
		●気候変動問題への対応	
		●環境に配慮したものづくり	
		●製品・サービスによる環境影響の緩和	
		●製品リサイクル、再利用、製品再生	
		 	
		 	
		 	

# 設備投資額内訳

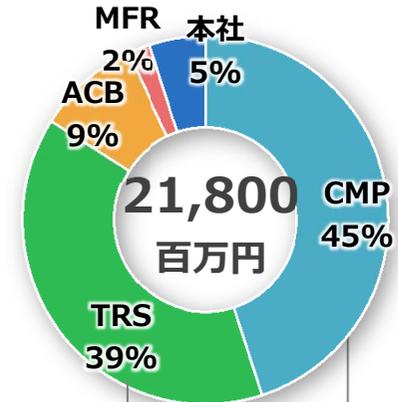
## セグメント別



- 精密減速機  
-中国新工場設備納入等

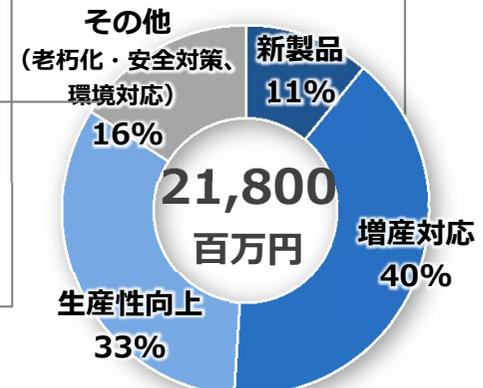
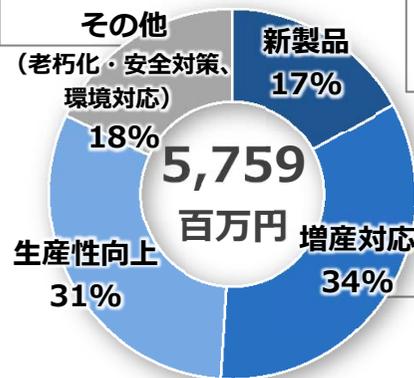
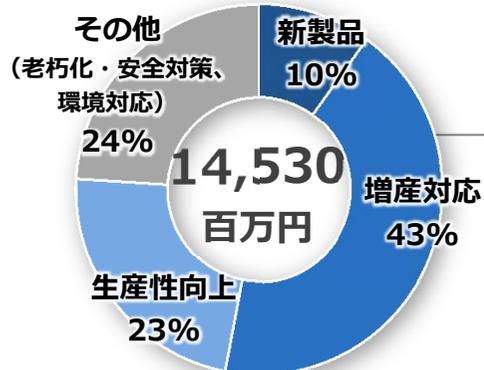


- 環境関連投資
- 研究開発関連投資

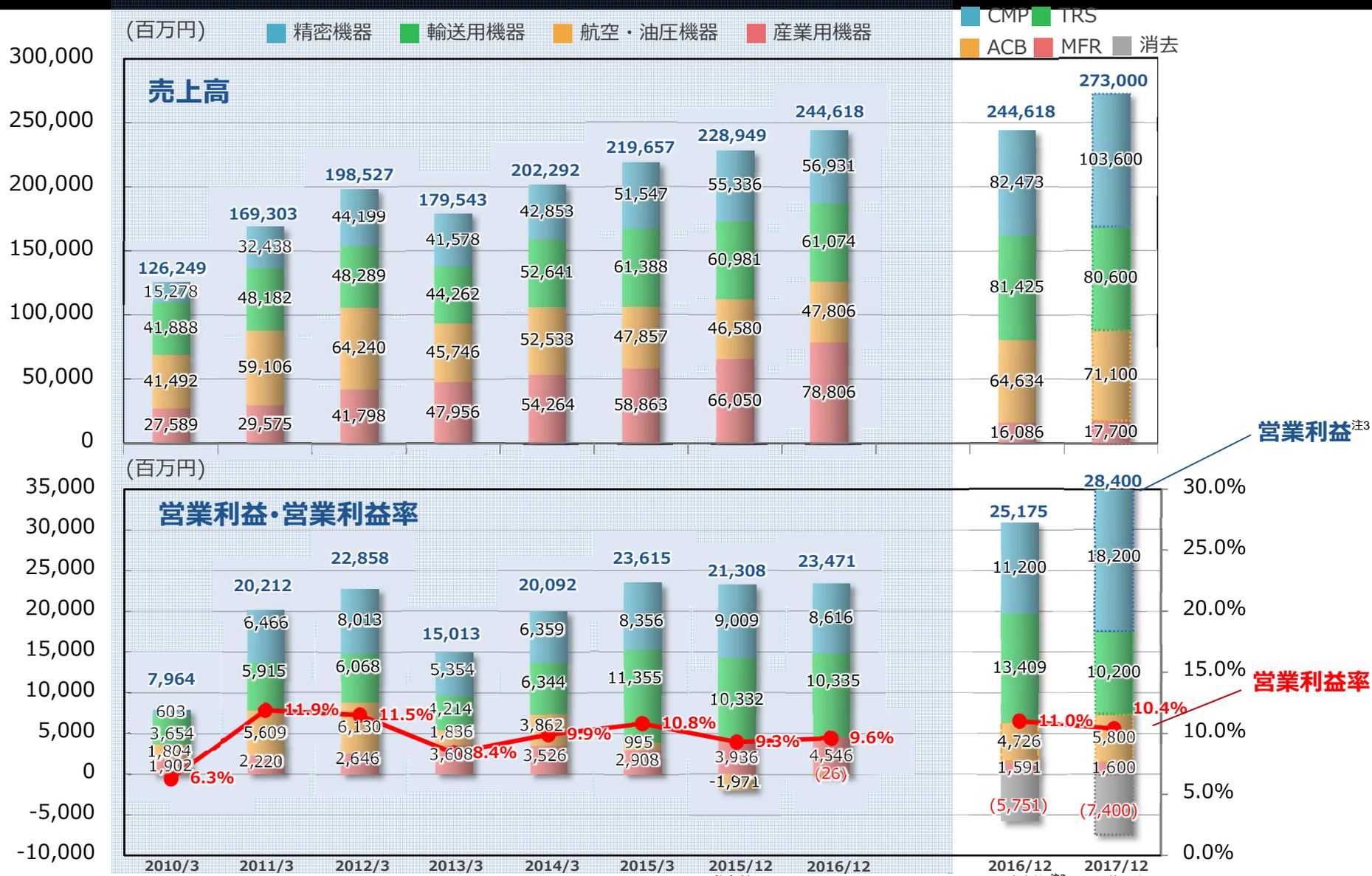


- 精密減速機  
-日本中国での増産投資
- 航空機器  
-岐阜工場設備増強

## 目的別



# 事業セグメント別 売上高・営業利益推移(12カ月)



## 通期セグメント別業績概況（新セグメント:IFRS）

(単位：百万円) セグメント	項目	2016/12 通期実績 <sup>注1</sup>	2017/12 通期期首計画	2017/12 通期修正計画	2020/12 中期計画参考値
コンポーネント ソリューション (CMP)	売上高	82,473	89,000	103,600	118,400
	コア営業利益 (営業利益率)	11,200 (13.6%)	13,700 (15.4%)	18,200 (17.6%)	22,200 (18.8%)
トランスポート ソリューション (TRS)	売上高	81,425	82,200	80,600	104,400
	コア営業利益 (営業利益率)	13,409 (16.5%)	11,500 (14.0%)	10,200 (12.7%)	17,200 (16.5%)
アクセシビリティ ソリューション (ACB)	売上高	64,634	71,100	71,100	79,200
	コア営業利益 (営業利益率)	4,726 (7.3%)	5,800 (8.2%)	5,800 (8.2%)	7,900 (10.0%)
マニュファクチャリング ソリューション (MFR)	売上高	16,086	17,700	17,700	27,700
	コア営業利益 (営業利益率)	1,591 (9.9%)	1,600 (9.0%)	1,600 (9.0%)	3,200 (11.6%)
全社	売上高	-	-	-	300
	全社または消去	- 5,751	-6,600	-7,400	-8,500
その他収益、費用		1,763	-	-	-
連結合計	売上高	244,618	260,000	273,000	330,000
	営業利益	25,175	26,000	28,400	42,000

注1: 2016/12通期実績(IFRS)の値は、2017/12期(IFRS)計画と比較するために作成した2017年2月10日時点の参考数値です。会計監査の結果変更になる可能性があります。  
コア営業利益：日本会計基準（JGAAP）の営業利益に対して、主にのれん償却額を戻し入れて算出しています。

# 2017年12月期第3四半期BS概況

(単位：百万円)	2016/12期末 2016年12月31日現在	2017/12期第3四半期 2017年9月30日現在	差異
資 産	256,973	289,321	32,348
( 現 預 金 等 )	41,780	40,034	-1,746
( 営 業 債 権 )	65,569	70,653	5,085
( 棚 卸 資 産 )	32,704	40,716	8,012
( 有 形 固 定 資 産 )	63,155	69,213	6,058
負 債	101,070	119,923	18,854
( 社 債 及 び 借 入 金 )	16,949	27,525	10,576
資 本	155,904	169,398	13,494
( 非 支 配 持 分 )	7,974	8,831	857
親 会 社 所 有 者 帰 属 持 分 *	147,929	160,567	12,637

※ 親会社所有者帰属持分比率：

57.6%

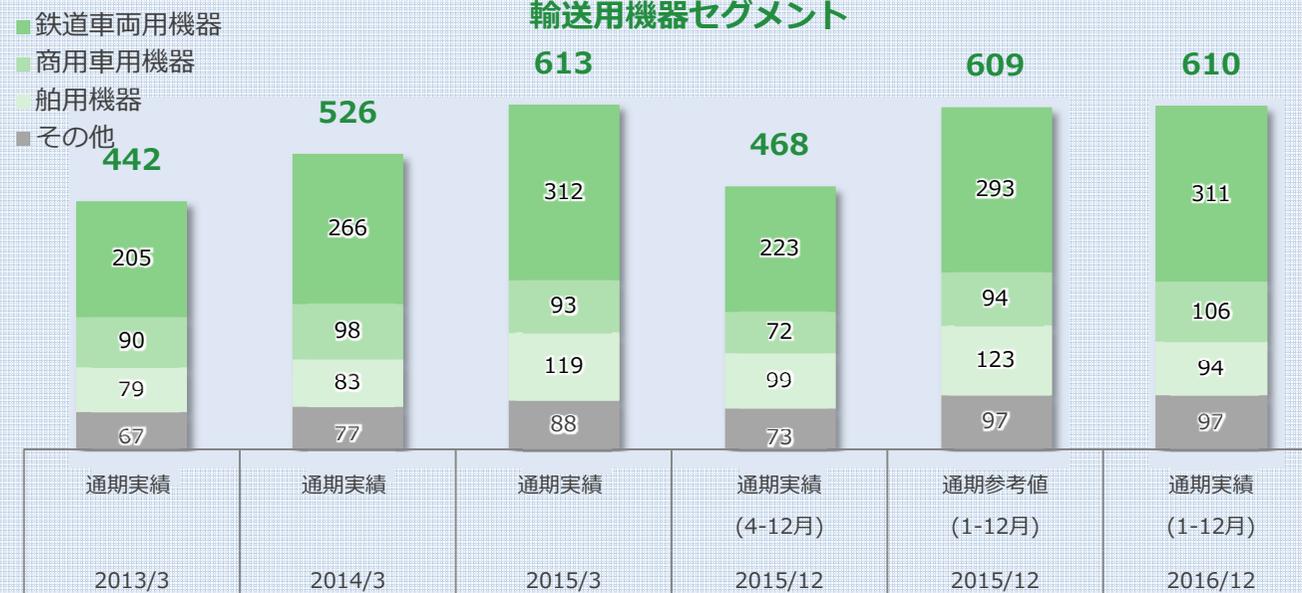
55.5%

# 事業別 売上高推移

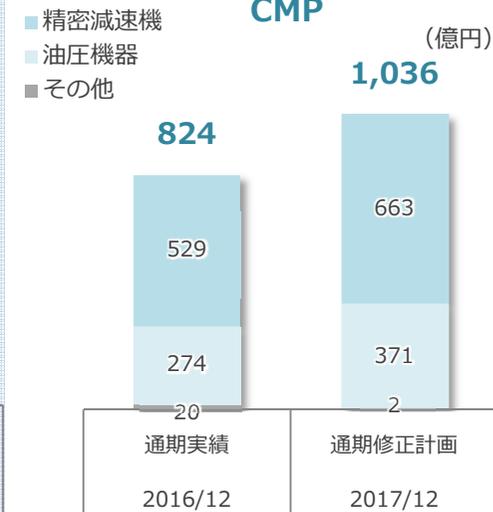
## 精密機器セグメント



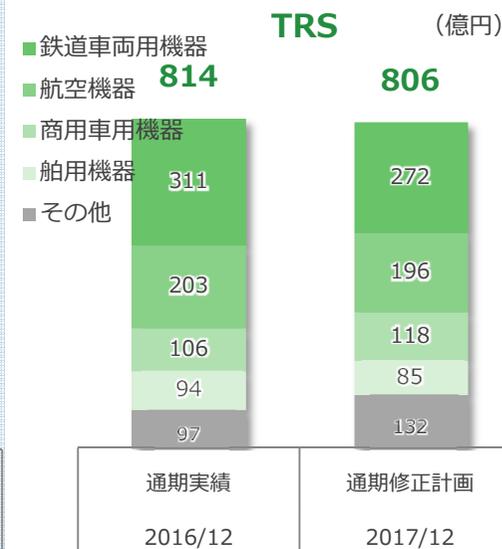
## 輸送用機器セグメント



## CMP



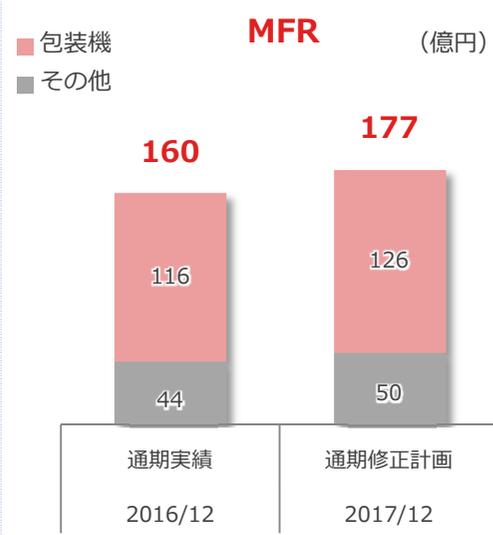
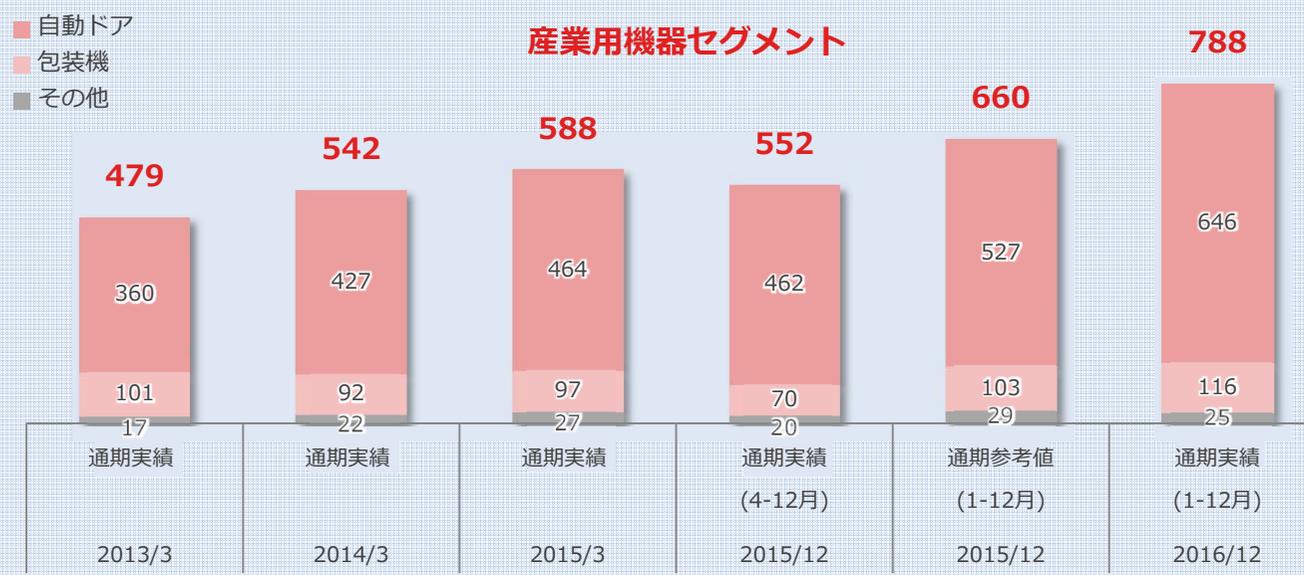
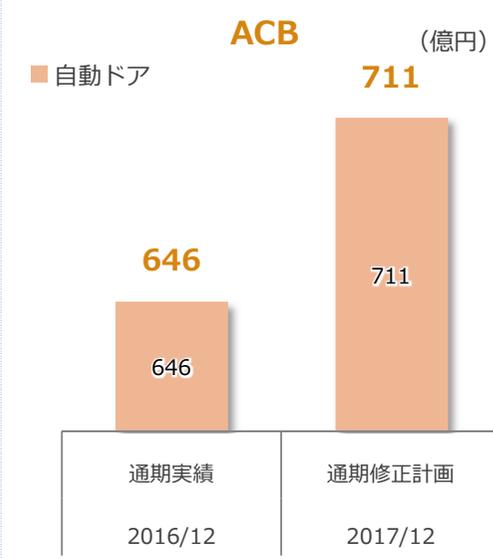
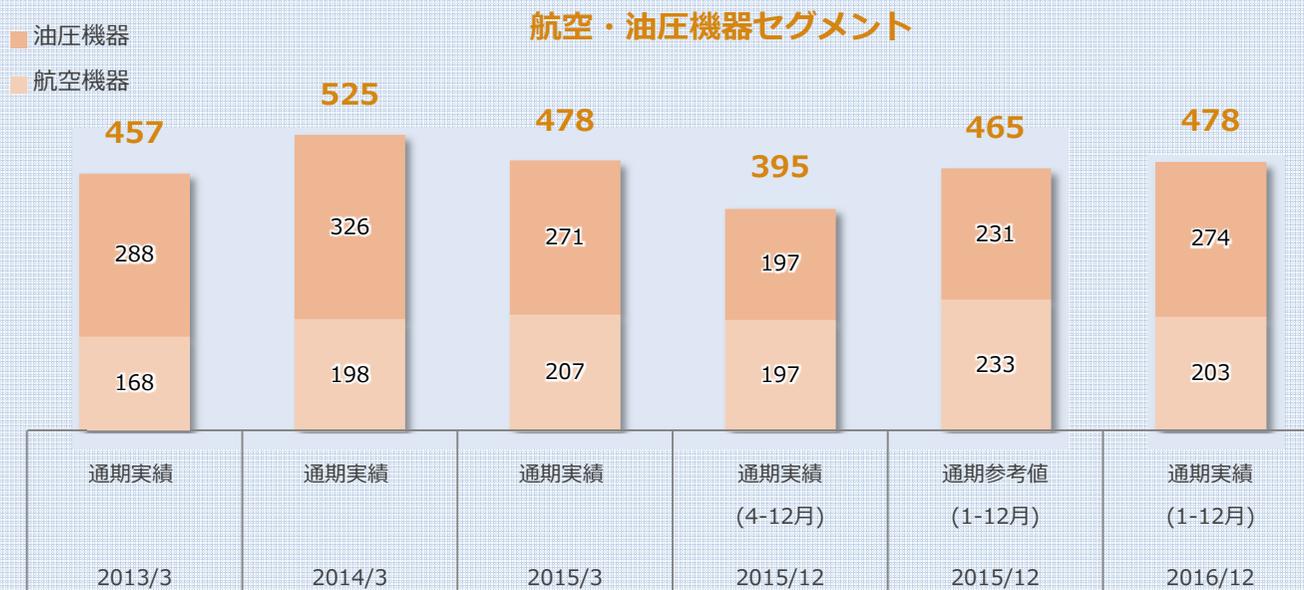
## TRS



JGAAP

IFRS

# 事業別 売上高推移

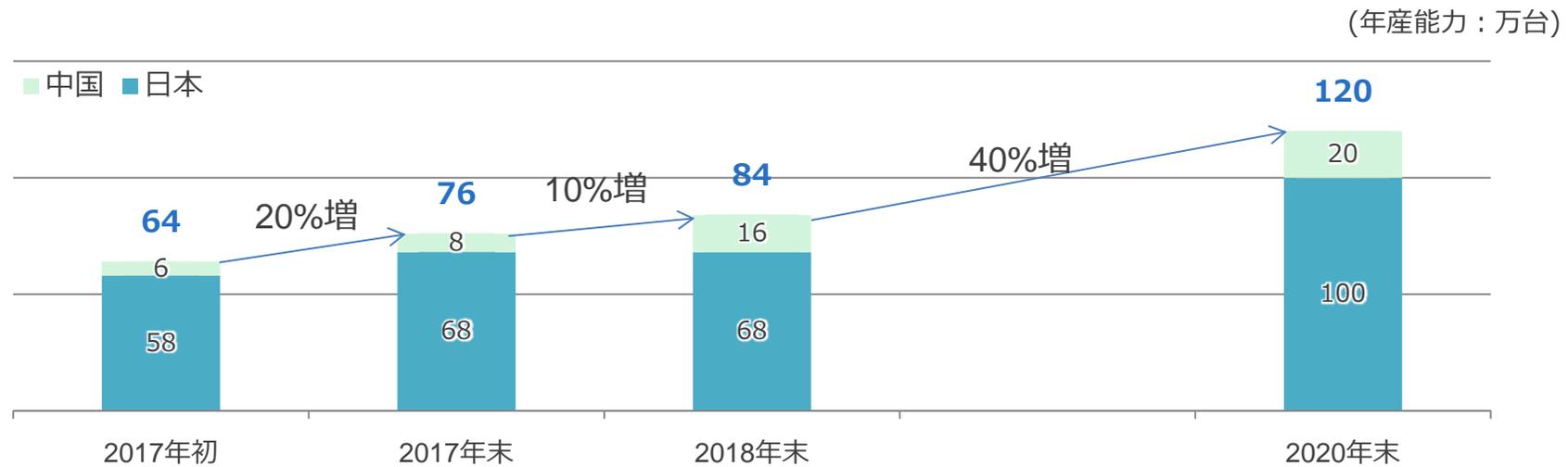


JGAAP

IFRS

# 補足資料1

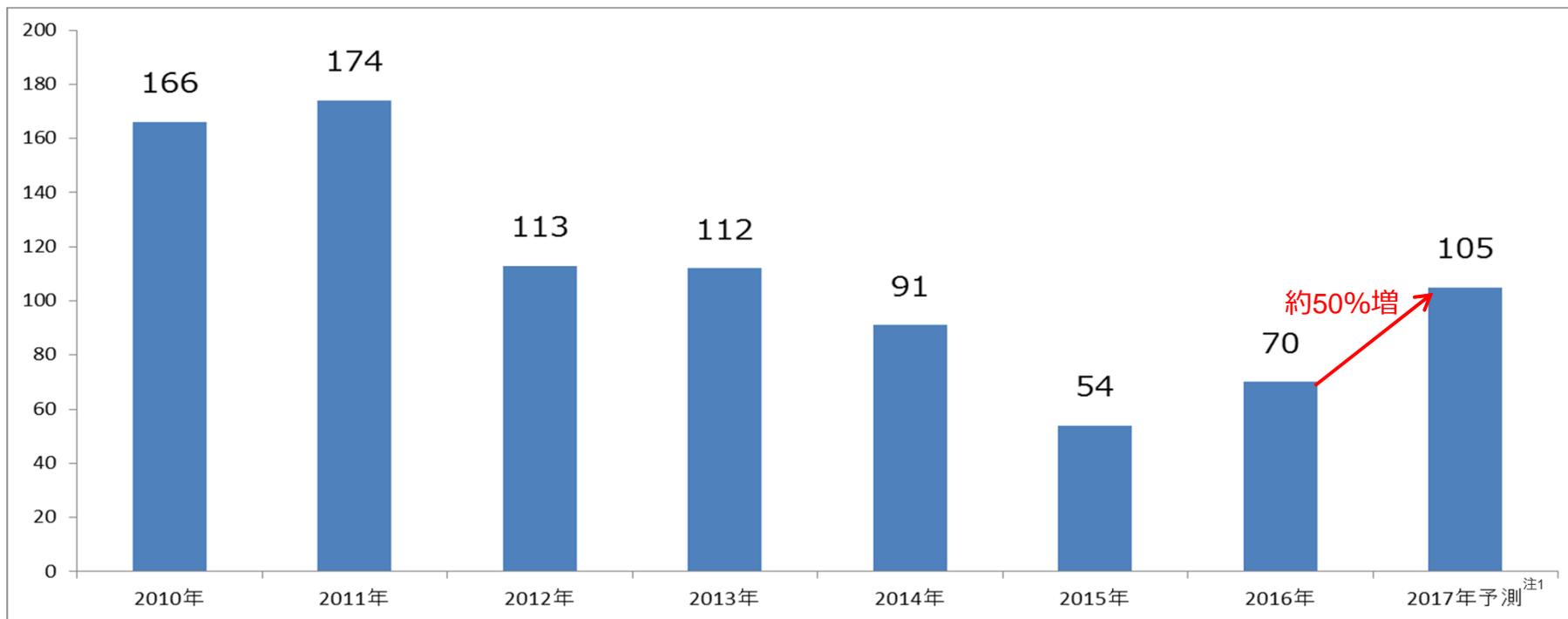
## 精密減速機 定時生産能力拡張



## 中国市場のショベル販売台数

### 中国市場のショベル販売台数の推移

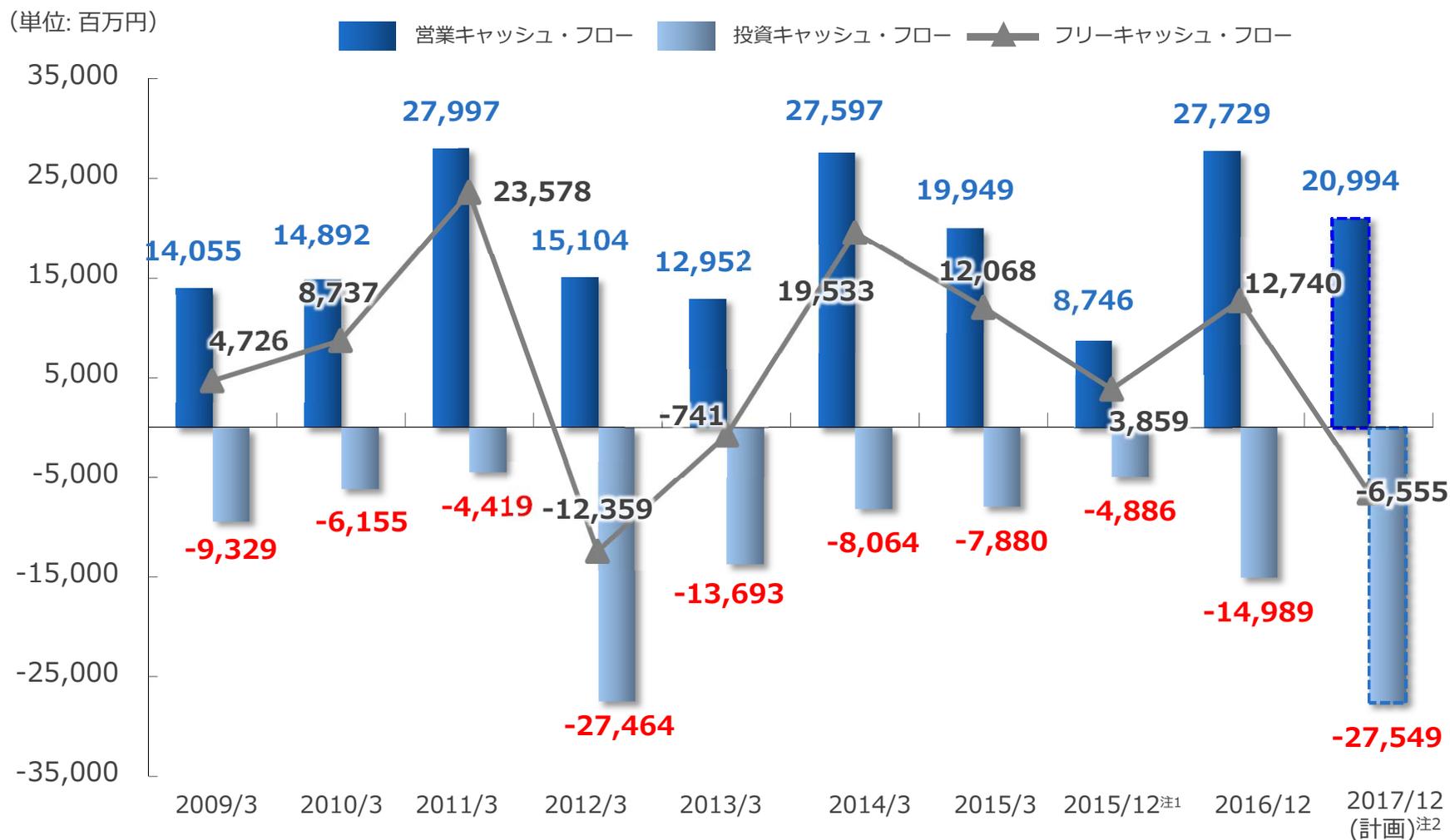
(単位：千台)



出典：中国工程机械工業協会

注1当社予測

# 連結キャッシュ・フロー



注1 「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期実績(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご注意ください。

注2 持分法子会社利益の変動要素を除いた形で比較するため2017年2月10日時点の計画値を使用しています。

## 用語

CMP : コンポーネントソリューションセグメント

TRS : トランスポートソリューションセグメント

ACB : アクセシビリティソリューションセグメント

MFR : マニユファクチャリングソリューションセグメント

コア営業利益 : 売上高から、売上原価と販売費及び一般管理費を控除して算出しています。

# コンポーネントソリューションセグメント (CMP) 主要製品

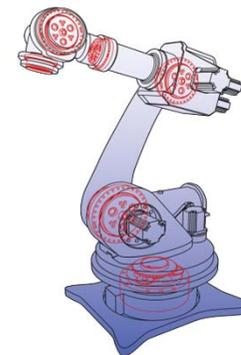
## 精密減速機

### ■ 産業用ロボットの関節用途



### ■ 工作機械 ATC駆動分野

(ATC = Automatic Tool Changer)

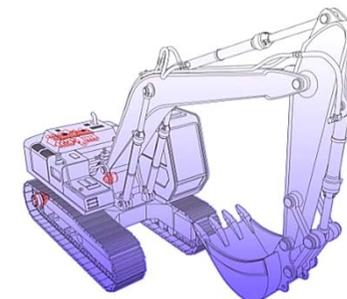


## 油圧機器

### ■ パワーショベル用走行ユニット



### ■ 風力発電用駆動装置



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

### ■ 油圧機器

走行ユニット：コマツ、コベルコ建機、クボタ、住友建機、Sany、Zoomlion、XCMG、Liu Gong

風力発電機用駆動装置：三菱重工業、日立製作所、他

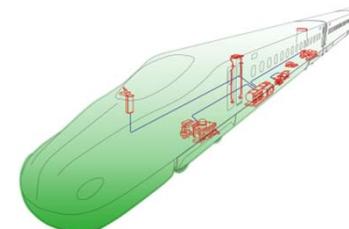
# トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

## 鉄道車両用機器

### ■ 鉄道車両用ブレーキシステム



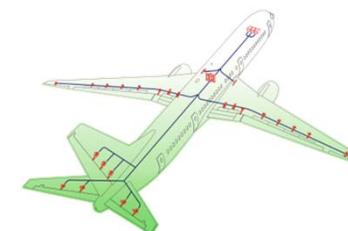
### ■ 鉄道車両用ドア開閉装置



## 航空機器

### ■ フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)

- FCAでは世界4強の1社(ボーイングの主要サプライヤー)
- エンジン補機、電源システム等へも事業展開



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

### ■ 航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

# トランスポートソリューションセグメント (TRS) 主要製品

## 商用車用機器

### ■ 商用車用ウェッジチャンバー

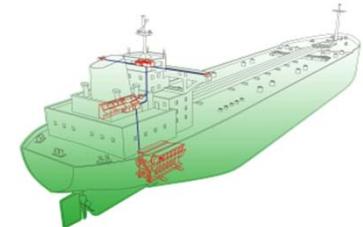


### ■ 商用車用エアドライヤー



## 船用機器

### ■ 船用エンジン遠隔制御システム



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 商用車用機器

日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、いすゞ自動車、UDトラックス

### ■ 船用機器

川崎重工業、三井造船、三菱重工業、日立造船

Hyundai Heavy Industries (韓)、Doosan Engine (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、MAN Diesel (デンマーク)

# アクセシビリティソリューションセグメント (ACB) 主要製品

## 自動ドア

### ■ 自動ドア開閉装置



### ■ プラットホームスクリーンドア



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 自動ドア

各種建物用自動ドア： 大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関

プラットホームドア： フランス地下鉄、中国地下鉄、他

# マニュファクチャリングソリューションセグメント (MFR) 主要製品

## 包装機

### ■ レトルト食品用充填包装機



## 主要顧客 (敬称略)

### ■ 包装機

三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

うごかす、とめる。  
**Nabtesco**

